「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校４年目を迎えて
～平成29年度の取組～

えりも町立えりも小学校
学　級　数　８
（校長　髙橋　秀壽）

１　本校の紹介

えりも町は、北海道の東南端に位置し、人口約5,000の豊かな水産資源と雄大な自然景観に恵まれた漁業と観光の町で、えりも岬や豊似湖などの景勝地に多くの観光客が訪れる。

本校は、海と大地に囲まれた豊かな自然環境の中にあり、開校140年を迎えた伝統ある学校である。現在、各学年１学級、特別支援学級２学級の計８学級に、171名の児童が学んでいる。

道教委の「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校として４年目を迎え、道内外の先進的な良好事例を積極的に取り入れ、学校や保護者、地域、児童が一体となった包括的な学校改善に取り組んでいる。

２　学校力向上に向けた取組の概要

(1)　「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の取組について

【「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校　えりも町立えりも小学校の４つの取組】
① 学校マネジメント　② 人材育成　③ 教育課程・指導方法等　④ 地域・家庭との連携

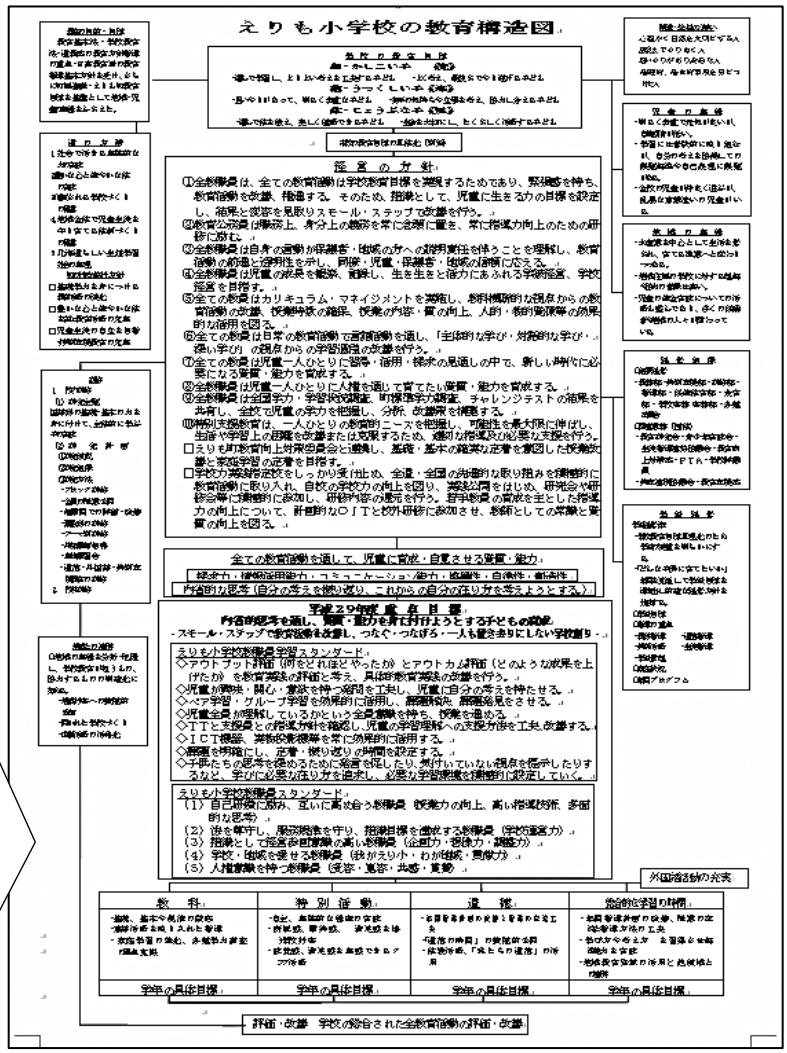
↓

「学び続ける学校」、「将来のスクールリーダーを継続的に輩出する学校」のモデルを示す

(2)　教育構造図について

包括的な学校改善の推進に当たり、学校が目指す目標やその実現に向けた取組を明確化した教育構造図を活用し、全教職員が目標の実現に向けて、共通実践を行っている。

「新学習指導要領解説　総則編」で示されている以下６点に基づき、自校における育成を目指す資質・能力やその実現に向けた取組を明確化した教育構造図を作成した。
①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）



【えりも小学校教育構造図】

３　平成29年度の学校重点目標について

内省的思考を通し、資質・能力を身に付けようとする子どもの育成
～スモールステップで教育活動を改善し、つなぐ・つなげる・一人も置き去りにしない学校創り～

教育の動向を注視し、効果的な学校改善を推進するため、中教審答申「幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月）から、重要なキーワードを「資質・能力」、「主体的」、「つながり」、「人間性」、「思考力」、「情報」等と捉え、全教職員で共通理解を図った。

また、児童一人一人に育成を目指す資質・能力を確実に育むためのカリキュラム・マネジメントの実現に当たっては、特に学習の基盤となる資質・能力を言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等と捉え、本校児童の実態を踏まえて、本校において育成する資質・能力を次の６項目に具体化し、教育活動全体を通じて育成を目指すこととした。

〔えりも町立えりも小学校において育成を目指す資質・能力〕
①探求力　②情報活用力　③コミュニケーション力　④協働性　⑤自律性　⑥創造性

４　学校マネジメントにおける取組

(1) 校内組織の工夫・改善

本校では、本年度から校内運営委員会及び教育課程検討委員会を設置し、学校行事の精選や懸案事項の検討、学校改善プランや教育課程の検証等、各委員会の役割を明確にして学校運営を行うことができるよう校内組織を改善した。

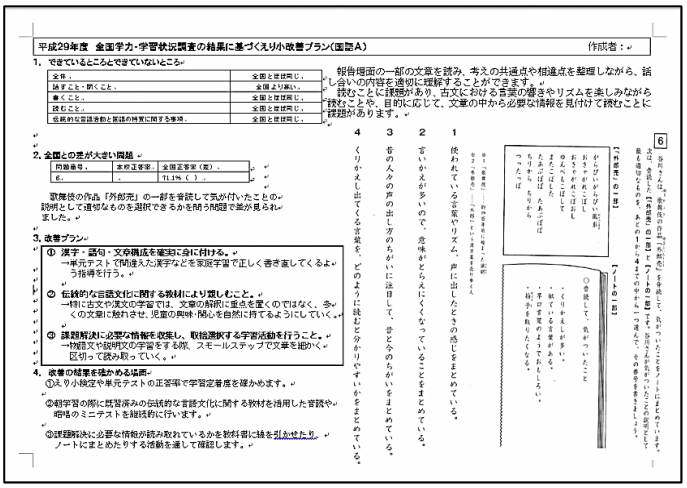
校内運営委員会では、各校務分掌の業務を調整し、各分掌会議における協議内容を精選することにより、分掌業務の効率化を図り、職員会議を短縮するなど教員の子どもと向き合う時間の確保に努めた。

また、教育課程検討委員会では、文部科学省通知「小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について」（平成29年７月）に基づき、校内研修用資料を作成して全教職員に周知するともに、移行期間中の教育課程編成に係る検討を行った。

(2) 検証改善サイクルの確立

○　全国学力・学習状況調査の取組

①　実施当日（４月）～教務部が自校採点結果を分析し、課題解決に向けた具体的な取組を周知する。
②　全教職員で課題解決に向けた具体的な取組を共通実践する。（４～７月）
③　調査結果の提供（８月）～全教員が、国語Ａ・Ｂ、算数Ａ・Ｂの最終分析を行い、課題解決に向けた取組の改善を検討する。
④　研修日に平均正答率の低かった問題とその要因や改善の取組について共通理解を図り、全教職員で授業改善に取り組む。


平成29年度　全国学力・学習状況調査の結果に基づくえりも小改善プラン(国語Ａ)　作成者：

1．できているところとできていないところ

全体。	全国とほぼ同じ。
話すこと・聞くこと。	全国より高い。
書くこと。	全国とほぼ同じ。
読むこと。	全国とほぼ同じ。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項。	全国とほぼ同じ。

2．全国との差が大きい問題

問題番号。	本校正答率。	全国正答率（差）。
6。	。	71.1%（　）。

取舞鼓の作品「外郎売」の一部を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択できるかを問う問題で差が見られました。

3．改善プラン

① 漢字・語句・文章構成を確実に身に付ける。
→単元テストで間違えた漢字などを家庭学習で正しく書き直してくるよう指導を行う。

② 伝統的な言語文化に関する教材により親しむこと。
→特に古文や漢文の学習では、文章の解釈に重点を置くのではなく、多くの文章に触れさせ、児童の興味・関心を自然に持てるようにしていく。

③ 課題解決に必要な情報を収集し、取捨選択する学習活動を行うこと。
→物語文や説明文の学習をする際、スモールステップで文章を細かく区切って読み取っていく。

4．改善の結果を確かめる場面

①夏期小検定や単元テストの正答率で学習定着度を確かめます。

②朝学習の際に話型源みの伝統的な言語文化に関する教材を活用した音読や暗唱のミニテストを継続的に行います。

③課題解決に必要な情報が読み取れているかを教科書に線を引かせたり、ノートにまとめたりする補助を通して確認します。

報告場面の一部の文章を読み、考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合いの内容を適切に理解することができます。

読むことに課題があり、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことや、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むことに課題があります。

4　くりかえし出てくる言葉を、どのように読むと分かりやすいかをまとめている。
3　昔の人々の声の出し方のちがいに注目して、昔と今のちがいをまとめている。
2　言いかえが多いので、意味がとらえにくくなっていることをまとめている。
1　使われている言葉やリズム、声に出したときの感じをまとめている。

【えりも小学校学校改善プラン】

○　えりも町標準学力テストの活用

えりも町では、教育向上対策委員会において、町内の児童の学力の課題を明らかにし、えりも町標準学力テスト（町独自で作成したテスト）を実施している。本調査やほっかいどうチャレンジテスト等を活用することにより、検証改善サイクルを確立し、学校改善プランの改善を図った。

○　全国体力・運動能力・運動習慣等調査の活用

保健体育部を中心に、体力合計点や種目別結果の経年変化を分析し、職員会議において、体力の向上及び運動習慣の定着に向けた授業改善の手立てや日常的な取組について共通理解を図った。（全校長縄跳び、マラソン大会、年間を通じた食育等）

(3) 外部からの継続的な指導助言に基づく教育課程・指導方法等の不断の見直し

学校重点目標「一人も置き去りにしない学校創り」を推進するため、日高教育局の学校経営指導及び学校教育指導による指導助言を学校経営、教育課程、指導方法等の改善に生かすとともに、横浜市の初任段階教員指導教員の野中　信行氏をアドバイザーとして、積極的に外部からの有識者による指導助言を受け、教育課程等における不断の見直しを行った。

5　人材育成について

(1) 若手教員及び将来のスクールリーダーの計画的な育成

人材育成の年間計画（初任者育成目標）を作成し、教職員の資質・能力の向上に取り組んでいる。

①　管理職による日常の巡回指導

・授業者の学習指導の改善点についてレジュメで伝え、授業者と面談し指導力の向上を図る。

・児童や保護者との信頼関係づくりや職場の人間関係づくり等の悩みを捉え、教職員の心のケアを図る。

②　年間１人１回の校内授業研究

・実践的な校内研修を推進するため、全ての教職員が年間１回以上授業を公開し、全体で成果と課題を共有する。

③　放課後のテーマ別研修の設定

・１日２講座のテーマ別研修を年３回実施し、研究内容以外に、教科等指導力の向上に向けた実技研修等を行う。

XII　人材育成

えりも小学校の初任者育成目標	
教員としての基盤	①　先輩や同僚の話に耳を傾ける素直さ、話を聞き入れる謙虚さ ②　仕事に対する向上心 ③　社会人としての最低限の常識・マナーと協調性 ④　教師としての自覚と責任 ⑤　チーム学校という意識の一員としての自覚と責任・協調性
１年次	◎　学級経営を適切に行う力を身に付ける。 ◎　児童との適切な人間関係を築く。 ◎　４５分間の授業を指導過程に沿ってテンポよく行う。 ◎　発問、指示、説明を意識して話す。
	初任段階教員研修　学校計画研修年間 150時間以上　一般研修４日間　宿泊研修２泊３日（教科等指導力　学級経営力）
２年次	◎　本校で示されている授業スタイルを一層意識して行う。 ◎　共通実践を意識し、もれなく行う。 ◎　様々な児童理解に努める。 ◎　優先順位を考えて仕事に取り組む。
	初任段階教員研修　学校計画研修年間 30時間以上　道教委計画研修３日間（学級経営力　生徒指導・進路指導力）
３年次	◎　自分の授業技術を確認し、課題意識を持って日々の授業を行う。 ◎　児童理解をもとに、学級経営・授業実践を行う。 ◎　先を見通した段階的な指導や行事等との関連を図った効果的な指導を行う。 ◎　担任する学年の前後のつながりを意識した授業、活動を行う。
	初任段階教員研修　学校計画研修年間 30時間以上　道教委計画研修５日間（地域との連携・対応力　チーム貢献力）
４年次	◎　初認段階教諭のリーダーとして、仕事ぶりや行動を示す。 ◎　校長の経営方針、重点等への一層の理解に努める。 ◎　学校全体を意識する。 ◎　他校の研究会に積極的に参加し、研修の幅を広める。
	初任段階教員研修　学校計画研修年間 20時間以上　道教委計画研修３日間（5つの力の総合点検）
５年次	◎　異動先で研修の成果を活かして教育実践、分掌業務に励む。 ◎　初任者ではなく中堅職員という意識を持つ。
	初任段階教員研修　道教委計画研修２日間（メンターとしてのチーム貢献力）

【えりも小学校の初任者育成目標】

【初任者育成目標（「えり小の教育」に掲載）】

初任段階教員の４年次までの長期的・短期的な育成目標を具体化し、管理職及び初任段階教員、メンター教員が見通しをもって取り組む。

④　メンターチームによる研修

・30 代の教員２名をメンターに指名し、スクールリーダーとしての自覚を促すとともに、４名の初任層段階教師の計画的な育成を図る。

・メンター通信を発行し、若手教員の成長を価値付けたり、悩みや疑問を学校全体で共有したりするなど、学校全体で人材を育成する風土を醸成する。

⑤　「校内研修プログラム」を活用した研修

・通常の学級を含めた特別な教育的配慮を必要とする児童への指導・支援の充実を図るため、学校全体で特別支援教育に係る校内研修を推進している。

(2) 「えりも小学校教職員学習スタンダード」と「えりも小学校教職員スタンダード」の作成

「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校として、教職員の異動があっても本事業の趣旨である「学び続ける学校」を持続し、これまでの教育活動の質の維持と向上を図ることが大切である。そのため、現在実施している学習指導等の取組について共通理解を図ったり、次年度以降に確実に引引き継いだりするために、２つの「スタンダード」を作成した。「えりも小学校教職員学習スタンダード」については、学習規律や学習形態などをはじめ、児童が身に付けた力や変容を数値等の客観的に

指標で見取り、成果と課題を検証するアウトカム評価の実施など、「えりも小学校教職員スタンダード」については、教育公務員の服務規律の徹底や学び続ける教師の在り方などについて、明記した。

えりも小学校教職員学習スタンダード

◇アウトプット評価（何をどれほどやったか）とアウトカム評価（どのような成果を上げたか）を教育実践の評価と考え、具体的教育実践の改善を行う。
◇児童が興味・関心・意欲を持つ発問を工夫し、児童に自分の考えを持たせる。
◇課題を明確にし、定着・振り返りの時間を設定する。
◇子供たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な在り方を追求し、必要な学習環境を積極的に設定していく。
◇ペア学習・グループ学習を効果的に活用し、課題解決、課題発見をさせる。
◇児童全員が理解しているかという全員意識を持ち、授業を進める。
◇ＴＴと支援員との指導方針を確認し、児童の学習理解への支援方法を工夫、改善する。
◇ＩＣＴ機器、実物投影機等を常に効果的に活用する。

えりも小学校教職員スタンダード

（1） 自己研鑽に励み、互いに高め合う教職員（授業力の向上、高い指導技術、多面的な思考）
（2） 法を遵守し、服務規律を守り、組織目標を達成する教職員（学校運営力）
（3） 組織として経営参画意識の高い教職員（企画力・創造力・調整力）
（4） 学校・地域を愛せる教職員（我がえり小・我が地域・貢献力）
（5） 人権意識をもつ教職員（受容・寛容・共感・賞賛）

【2つのスタンダード】

6　教育課程・指導方法等における工夫・改善

(1) 単元の指導計画における「カリキュラム・マネジメント」の確立に向けた取組

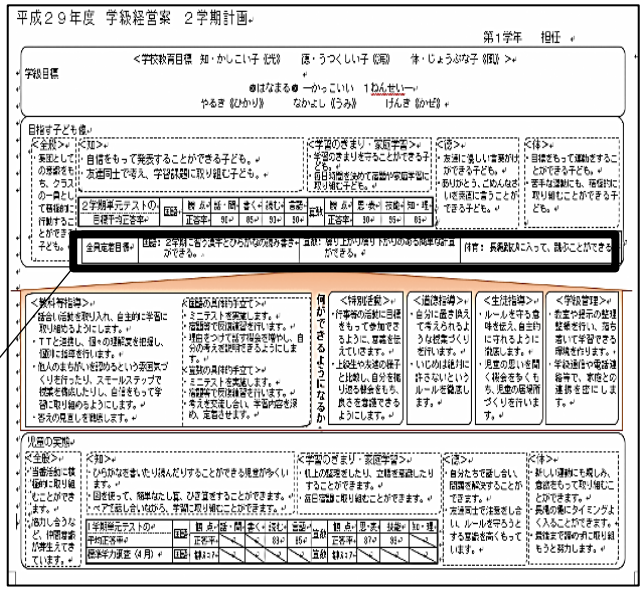
本校が設定する育成を目指す資質・能力を確実に育むために、カリキュラム・マネジメントの３つの側面について全教職員が共通理解を図った。とりわけ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、国語科における単元の指導計画の見直しを図った。また、教科横断的な視点による単元配列の見直しを行った。

(2) 学年ごとの最低限の到達目標を設定

学力・体力の向上を図るため、国語科・算数科・体育科において、「全員定着目標」を設定し、学級経営案に位置付けた。

特に、国語科と算数科における知識・技能の定着を目指し、学校における学習指導の充実を図るとともに、家庭と連携して、家庭学習習慣の定着に取り組むなど、日常の指導において「全員定着目標」を踏まえた指導を継続した。

第１学年２学期【全員定着目標】
国語：２学期に習う漢字とひらがなの読み書きができる。
算数：繰り上がり、繰り下がりのある簡単な計算ができる。
体育：長なわ跳びに入って、跳ぶことができる。



【「全員定着目標」を明記した学級経営案】

(3)　各学年の学習内容の確実な定着を図るための指導方法の工夫・改善

新学習指導要領の趣旨に基づいた指導方法の工夫・改善を推進するため、年度当初の研修日に、全教職員が「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」について、理解が深まっている点や疑問点などを協議し、その後の校内研修の方向性について共通理解を図った。

「主体的な学び」については、課題の設定や見通し等の徹底、「対話的な学び」については、理由や根拠を明確にして自分の考えを表現する言語活動の充実、「深い学び」については、単元全体を通じて、児童が自分の考えを深めたり、新たな課題を見出したりする探究の学習過程の構築について、教職員が理解を深め、日常の授業改善に生かすことができた。

平成 29 年度　えりも小学校

「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の押さえ

児童に育成・自覚させる資質・能力

探求力・情報活用力・コミュニケーション力・協働性・自律性・創造性

えりも小学校で目指す具体的な子どもたちの姿

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
○興味・関心をもっている	○多様な手段で表現している	○課題を発見している
○見通しをもって活動している	○共に課題を解決している	○解決の方向性を見出している
○自分と結びつけて考えている	○多様な考えを交流している	○思考し、解決に向かっている
○振り返って自覚している	○共に考えを創り上げている	○知識を習得・活用している

【えりも小学校における「主体的・対話的で深い学び」の押さえ】

また、加配教員を活用した習熟度別少人数指導の積極的な実施やＴＴ指導における教員の役割の明確化、

実物投影機等のＩＣＴ機器を日常的な活用など、「主体的・対話的で深い学び」の実現を支える指導方法の工夫・改善を図った。

【えりも町の4つの学習の方策】

(4)　学習規律・生活規律の統一と徹底

町内における学校が共通に取り組む「えりも町の４つの学習の方策」及び「本校の学習のきまり」について統一した指導を徹底して実施し、結果等について点検を行っている。町内が共通に取り組むことにより、中学校への円滑な接続を意識している。

(5)　体力向上の取組について

全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果やマラソン大会へ向けた持久走の練習距離を学級ごとに児童玄関廊下等に掲示することにより、休み時間等において、自主的にグラウンドを走る児童の姿が見られるようになり児童が主体的に体力向上への関心を高めることができた。

(6)　学習評価の充実について

全教職員に「指導と評価の一体化は、指導のマネジメントであり、指導方法の評価、テストによる評価、学習状況や情意面の変容の評価など、多様な視点で児童を見取ることにより、指導力の向上につながる」ことについて共通理解を図り、教育活動の改善・充実に努めることを周知徹底した。また、評価について、保護者への説明責任を確実に果たすべく、評価の具体的な根拠をもつことを徹底した。

7　地域・家庭との連携について

(1) 学校改善プランと学級経営案の家庭への配付

全国学力・学習状況調査結果に基づく学校改善プランや、国語科、算数科、体育科の「全員定着目標」を示した学級経営案を家庭に配付し、ＰＴＡ総会や学級の保護者会等で説明することにより、学校の教育活動について保護者の理解を促進し、学校と家庭が連携して子どもたちを見守る体制づくりに努めた。家庭に学校の方針を示し、授業における基本的な学習過程や家庭学習の取組など指導内容を統一することにより、学校と家庭の信頼関係を構築することができた。

(2) 地域との連携

①総合的な学習の時間において、本町の伝統文化である「駒踊り」を題材として活用し、「地域の伝統文化についてより深く学び、伝統の継承を図る」ことをねらいとして、年間指導計画を見直し、地域人材や地域の素材を活用した学習に取り組んだ。

②避難訓練において、地震発生後の津波が押し寄せた場合を想定し、町内会の地域住民とともに避難行動をとっている。共に行動することにより、児童と地域住民との交流が深まり、「公助」の精神が育まれている。

【地域住民が参加する避難訓練の様子】

8　成果と課題

○　教職員の協働体制の確立により、児童が安心して学校生活を送り、学ぶ場となったことから、学力の向上が図られた。また、ミドルリーダーや若手教員の成長が促され、学校運営への参画意識が高まった。

○　保護者や地域と学校との信頼関係が築かれ、地域に根ざした安定した学校経営の実現が着実に進んでいる。

●　本事業の取組の成果を広く普及することにより、管内における学力向上の取組の先達として管内教育の充実につなげる必要がある。また、取組の継続を図り、更に進化させていく必要がある。